

鹿児島大学、日本エアコミュニティ（JAC、霧島市）、日本航空が取り組むパイロット養成事業の講座「スタート養成事業の講座」が1日、霧島市の鹿児島空港周辺で始まった。鹿大の学生と院生7人が約2週間、シミュレーターや実機で飛行操縦を体験し、2年間のライセンス取得訓練に進む2人が選ばれる。

初日は、フライトスクールを開く「ジャパン・ジェネラル・アビエーション・サービス」で座学があった。教官2人が巡回や上昇・下降など操縦方法や訓練機の基礎知識を解説。「初心者には計器より外を見る方が機体の安定が早い」と助言した。

理学部3年の清水 椋馬さん(21)は「コックピットで操縦かんを握れるのは貴重な体験。みんなで切磋琢磨して、身に付けた知識や技術が良い結果につながる」と話した。

JAC、JAL

パイロット養成事業始動

鹿大生選抜へ操縦体験



訓練機の操縦方法を説明する講座＝1日、霧島市のジャパン・ジェネラル・アビエーション・サービス

3者は昨秋、離島路線を持つJACのパイロットの安定的な確保を目指し、連携協定を結んだ。選ばれた2人は、来春から熊本、城大で訓練を受け、JACに入社。2025年春にも副操縦士となる。訓練費用2千万円の1部は3者が支援する。

(瀨田朋美)